



自宅看取りと終末医療
高崎学と観光大使の連携
木村純章
(志民たかさき)

質問 本市における自宅看取りのデータは。また、担当部局や助成等の仕組みはあるのか。

答弁 参考値であるが、近年の自宅で亡くなった方の割合は約12%である。自宅療養中のケアの相談は地域包括支援センターで行っており、県では地域リーダーの育成や他職種連携の推進が図られている。本市独自の助成はないが、医療・介護保険による訪問診療や看護、各種介護サービスを受けることができる。

質問 市内に緩和ケアのネットワークはあるのか。

答弁 医療機関が連携して、高崎地域緩和ケアネットワークの



放課後児童クラブの現状と新制度
丸山 覚
(公明党)

質問 放課後児童クラブが新制度になった場合の設備や人員要件などは。また、利用する児童が増えた場合の対応は。

答弁 児童福祉法では施設や設備の基準は、新制度の施行前までに市で定めるとされており、厚生労働省令の基準に加え、開所日数、時間等も定める。また、人員要件は国のガイドラインに加え、入所児童が増加した際に指導員を増員することなども定

ま、吉井図書館の「しりとりに読書カード」「うちよみ記録ノート」、新町図書館の「がんばった手帳」がある。全市民的には、利用者が自分の読んだ本な

会が平成20年3月に設立されている。地域の開業医へのアプローチ、患者家族への療養に関する情報提供、医療関係者への地域緩和ケア連携の情報提供を目的として活動しており、市は医療等のサービスを提供する団体として連携、協力している。

質問 高崎学検定について、現行のほか内容の易しい部門の設置をお願いしたいが、市民みんなが観光大使事業との連携はできるか。

答弁 両事業とも高崎に興味を持ってもらい、愛着を深めてもらう意味では同じであるため、連携して事業を推進したい。

める。施設の定員は、基準では概ね40人以下とされているが、現状をかんがみ、経過措置を設ける等の対応を検討したい。また、入学児童が増えた場合には空き教室の確保や学校周辺の空き家などの利用を考えたい。

質問 読書への意識づけの一つの方法として、読書通帳を提案したいが、どう考えるか。

答弁 読書通帳に類似した方策として箕郷図書館の「読書のお

と、吉井図書館の「しりとりに読書カード」「うちよみ記録ノート」、新町図書館の「がんばった手帳」がある。全市民的には、利用者が自分の読んだ本な



旧カッパピア跡地公園利用について オリンピックによる本市のまちづくり

白石隆夫
(新風会)

質問 観音山公園の整備計画にケルナー遊具の広場や子どもプールがあるが、その内容は。

答弁 ケルナー遊具は、斬新なデザイン・構造を特徴とし、子どもたちの冒険心を駆り立て、工夫して遊ぶことができる。子どもプールは、市内に水遊び場が少ないことから、ケルナー広場と連続性を持たせ、楽しく遊べる空間を整備するものである。

質問 観音山公園の整備地区の隣接地を購入したが、どんな拡張を予定しているのか。

答弁 現況の地形や起伏、樹木をそのままに緑と触れ合え、市民から親しまれる公園となるよう計画している。観音山丘陵全体を貴重な財産と捉え、緑の保全と活用を図りながら、魅力ある公園整備に取り組みたい。

質問 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を本市のまちづくりにとつなげていくのか。

答弁 新体育館の設置により、国内外からの合宿や大会誘致を積極的に行い、トップアスリートのプレーを間近で体験することで、将来を担う子どもたちに夢や希望を与えられる。また、国際化の進展や障害者スポーツの理解を深め、ユニバーサルデザインによる整備を推進したい。

除雪作業機の確保 後閑賢一

後閑賢一
(たかさき市民21)

質問 今年2月の大雪で道路の除雪が遅れたのは除雪機械の不足と考えるが、今後の方策は。消防署や支所に除雪機を備え、造園業者や農家等とも除雪体制を整える必要があるのでは。

答弁 除雪機械が少ない状況であり、土建業組合や河川国道事務局などに対応策の研究・協議をお願いしている。今回の大雪では建設業者のほか造園、設備業者にも作業を委託し、また、

地域連携による農機での除雪も行われた。今後は、スコップなどの除雪道具や小型除雪機の有効性、さらに地域における共助の取り組みも合わせ検証したい。

質問 除雪に当たり自主防災組織が役に立ったが、補助金額に段階を設けられないか。

答弁 補助金の上限は10万円だが、町内会人口に応じた補助額については、今後研究したい。

質問 文化芸術センター建設に

当たり、建設コストの高騰が懸念されるが、どう分析しているのか。また、今後の見通しは。



歩きたくなるまちへ 高岸俊一郎

高岸俊一郎
(新風会)

質問 歩きたくなるまちづくりとして、回遊のポイントとなる慈光通りなどの空き店舗に、オムツ換えや授乳などができる常設のママとキッズの休憩・交流の場の整備はできないか。

答弁 子育て世代に配慮した環境が街中になれば、中心市街地で休憩しながら買い物を楽しめ、滞在時間も長くなり、消費の拡大にもつながると考える。空き店舗の改修はコミュニティ施設活用支援事業で支援をしている。

は承知している。工事発注には、発注予定月に近い適正価格で積算しており、現在大きな問題は生じていない。今後も計画に支障がないよう対処したい。

また、今年度から開始する空き家対策も活用していただけると考える。

質問 観光客がハイキングを楽しめるように、山名町の天水にある既存道路のアスファルトを剥がすことで、自然なあぜ道と



ふるさと納税制度の活用 雇用拡大の施策

林恒徳
(志民たかさき)

質問 ふるさと納税制度を活用して、文化芸術センター建設に向けた市民意識の醸成をすることは可能か。

答弁 ふるさと納税は、具体的な使途を限定せず、7項目に分けて募集している。文化芸術センターに特化した項目を追加することは可能だが、大きな効果があるのかさらに検討したい。

質問 市内の中小零細企業の安定した経営のために、どのような対策が行われているのか。

答弁 ビジネス立地奨励金や雇用促進奨励金等の制度により、地元経済を活性化させ、雇用機

会の増大や安定化に取り組んで

し、そこに季節の花を植えるなど「自然の歩道」として整備することが制度的に可能か。

答弁 既存の道路を改良する問題点は、住民が出入り口として利用されている場合や緊急時の車両等の通行に支障となることから予測される。この道路は地域から舗装の要望があり整備を行ってきたので、「自然の歩道」として整備することは、車の通行を制限することになるため、地域住民の理解がいただければ、理論上は検討できるものと考え

いる。さらに、障害者や高齢者を継続雇用する中小企業主に対しては、中小企業特定求職者雇用開発補助金を支給している。

質問 今年2月の大雪の対応として、どのような流れで動いたのか。

答弁 2月14日に総務部と建設部を中心に警戒態勢をとり、15日に災害警戒本部を立ち上げ、16日、17日に被害状況の把握、市民への情報伝達、被害発生現場の対応、道路の除雪等を実施した。また、公共性の高い路線を定めて緊急的な除雪計画を作成し、全土木業者へ除雪の要請をした。



田園風景が広がる山名町天水地区